

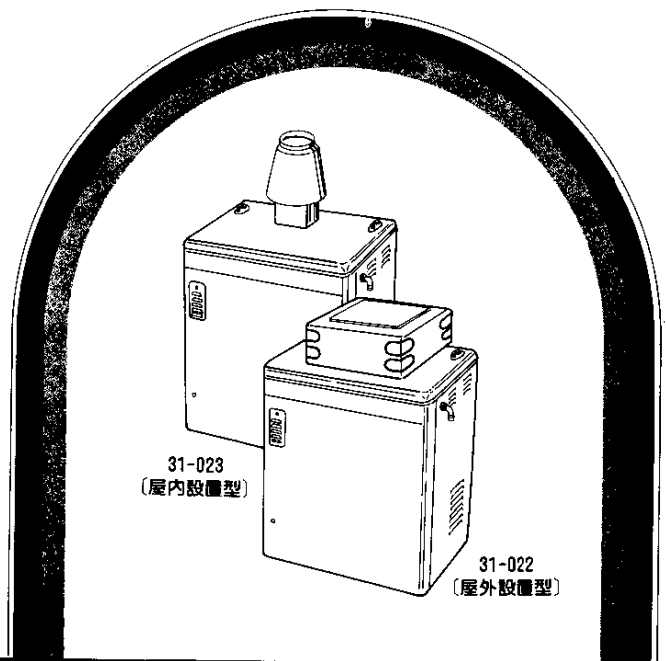


ガス風呂釜 〈セントラル給湯機能付〉

取扱説明書

31-022型
31-023型

保証書付



ガス器具をお使いになる時のご注意



ガスゴム管も
ときどき点検
よいゴム管を
カッチリと



使用中は、熱
くなります。
手をふれない
てください。



空だきには十分
注意しましょう。



ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

●ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガス風呂釜〈セントラル給湯機能付き〉を、お求めいただきまして、ありがとうございます。

この「取扱説明書」をよくお読みになって、器具を正しく使っていただき、別添の保証書とともに大切に保管してください。

もくじ

- 特に注意していただきたいこと..... ①
- 各部の名称(31-022)屋外設置型..... ②
- (31-023)屋内設置型..... ③
- 特長..... ④
- 設置状態の確認(31-022)屋外設置型..... ⑤
- (31-023)屋内設置型..... ⑥
- ご使用法..... ⑦
- 電池の入替え方..... ⑧
- 凍結による器具の破損を防ぐために..... ⑨
- 安全装置が作動したときの処置方法..... ⑩
- 日常の点検とお手入れ..... ⑪
- 故障・異常の見分け方と処置方法..... ⑫
- 保管(長期間使用しない場合)..... ⑬
- アフターサービスのお申し込み..... ⑭
- 仕様..... ⑮

特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくためにこの項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

- ・ガスの種類を確かめてください。
- ※器体（銘板）に表示してあるガス（ガスグループ）以外のガスでは使用しないでください。

- ※この風呂釜には器具正下面下に、銘板・コードラベル・合格証がはり付けてあります。

銘板例

RFS-1N(G)-A
都市ガス6C用
12,000kcal/h
製造番号
製造業者名

コードラベル例

(4)31-022(U)

大阪ガス株式会社

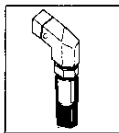
- ※ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。大阪ガスが供給しているガスは、都市ガス6C（4500kcal）都市ガス6A（7000kcal）都市ガス13A（11,000kcal）の3種類です。

- ※転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

ガス漏れ予防

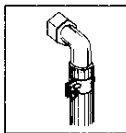
- ・ゴム管はガス風呂用ゴム管を使用し、ビニル管は絶対に使用しないでください。ビニル管は弾力性がなく熱にも弱く危険です。

(イ) ネジ接続の場合

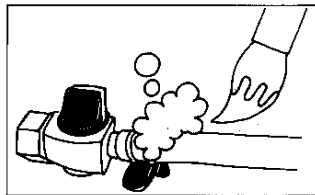


(ロ) ゴム管接続の場合

ゴム管をホースエンドに十分差し込んで、ゴム管止めでしっかりと止めてあるか確かめてください。



- ・ゴム管の寿命は2～3年くらいです。ゴム管が古くなると元コック（元せん）やホースエンド（ゴム管口）から抜けやすくなったり、ヒビ割れしてガス漏れの原因になりますので、ときどき石けん水などでガスが漏れていないか調べてください。

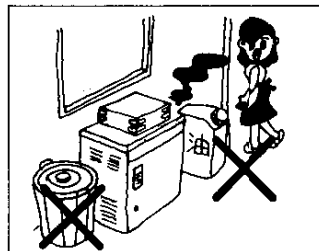


特に注意していただきたいこと②

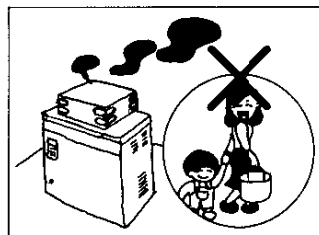
使用上のご注意

① 火災予防

- ・器具の上やそばに燃えやすいもの（紙、カーテン、ポリバケツ、ゴミ箱、家具、揮発油など）を絶対においたり、近づけたりしないようにしてください。



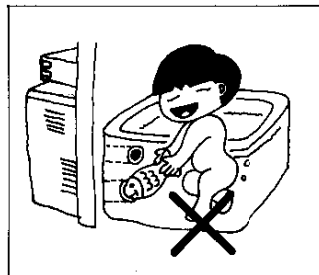
- ・火をつけたままで就寝、外出は、絶対にしないでください。



② 過熱予防

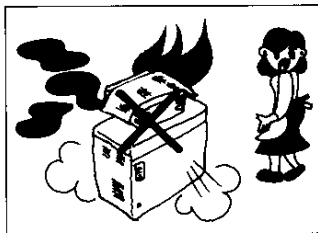
(1) 循環パイプについて

- ・風呂釜と、浴そうを接続している上下の循環口をタオルなどで、ふさがないようにしてください。お湯が循環しなくなり、器具が過熱して危険です。



特に注意していただきたいこと③

- ・屋外設置器具の排気トップの上や器具本体に物をのせると、給気口や排気口がふさがれ、不完全燃焼の原因にもなり、過熱の危険がありますから絶対にのせないでください。



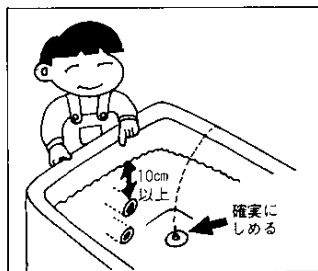
(2) 空だき注意

お風呂を空だきさせないようにご注意ください。
そのために次のことを必ず実行してください。

※浴そうの排水栓は確実にしめてください。

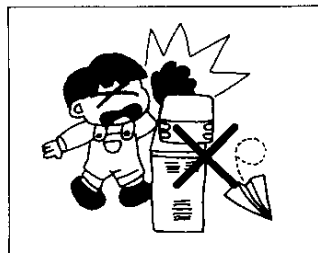
※風呂釜に点火する前に、もう一度水面が上部循環口より10cm以上高くなっているか確かめてください。

※万一空だきしたときは、全てのつまみを「止」にもどして、15分以上待って（水位を確かめて）から再点火してください。



(3) やけどのご注意

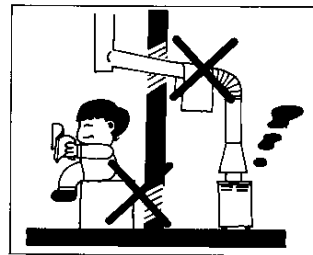
ご使用中、および使用直後は、排気トップや器具本体と天ぶた部とその周辺は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。



特に注意していただきたいこと④

③換気のご注意

お部屋の換気口（給気口・排気口）は常に確保し、物などでふさがないようにしてください。

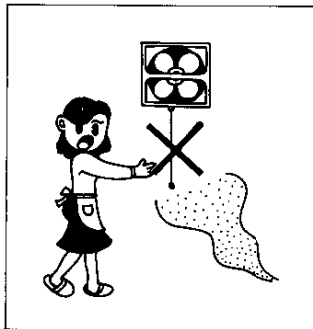


④ガス事故防止

・ガス漏れに気づいたときはすぐ使用をやめ、ガス元コックを閉じ、窓を開けて換気を行い、販売店、もしくは大阪ガス各支社にご連絡してください。



・万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具にふれたり（スイッチの入、切や電源プラグの抜き差し等）しないでください。火や火花で引火し爆発事故を起すことがあります。



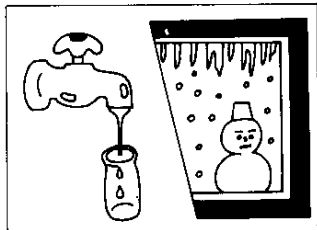
特に注意していただきたいこと⑤

⑤使用後の処置

・器具をご使用にならないときや、外出前、またおやすみの前には、万一の事故がないように必ずガス元コックをしめてください。

・冬期の凍結防止

冬期器具内の水が凍るおそれのあるときは、凍結による器具の破損を防止するために、水抜きを必ず行うか、給湯蛇口から水を出しっぱなしにするかなどして、凍結を防止してください。（詳しくは20ページを参照）



<ご注意>

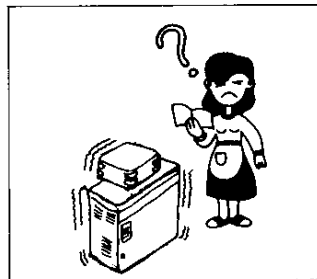
器具の給水元せんは水抜きをする場合以外は絶対にしめないでください。この風呂釜には、万一凍結防止処置を忘れた場合、自動的に器外に少量の水を流出する低温作動弁が付いていますので、水抜きの場合以外は、絶対に給水の元せんをしめないでください。

⑥健浴剤や洗剤についてのご注意

※イオウ、酸、アルカリを含んだ健浴剤や洗剤は熱交換器が腐食する原因となりますので使用しないでください。

⑦異常時の処置

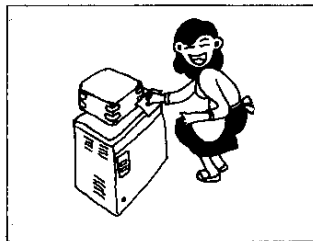
ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず、直ちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。（故障・異常の見分け方と処置方法は25ページをお読みください）



特に注意していただきたいこと⑥

⑧日常の点検・お手入れ

器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、お手入れは必ず行ってください。（点検、お手入れの方法については23ページをお読みください。）



⑨その他のご注意

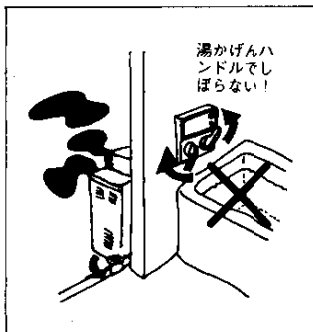
・お湯をお使いになるときは、使い初めはぬるく、継続して使用する場合は初めはあついお湯が出ますから、出はじめのお湯を直接身体にかけないで、湯温が安定してからご使用ください。



・器内に長時間たまっていた水は、飲用または調理に用いないでください。

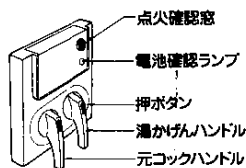
・水道の元せんや、ガスの元コック、および湯かげんハンドルでしばって使わないでください。ガス量をしばると、熱効率がおちたり不完全燃焼をおこします。また水道元せんをしぼるとメーンバーナーに火がつかなくなったりしますので必ず「全開」でお使いください。

・ふろを長時間使った直後に給湯器をご使用になる場合、出始めのお湯は相当熱くなっていますから湯温が安定してからご使用ください。

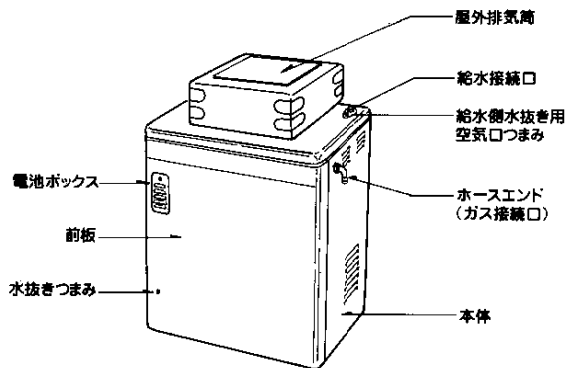


各部の名称

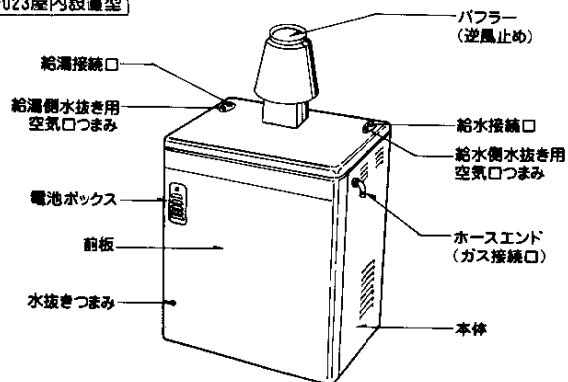
湯かげんハンドル



31-022屋外設置型



31-023屋内設置型



特長

- ① 一つのキャビネットに風呂用バーナーとその熱交換器。それにシャワー用の給湯器(瞬間式)のバーナーとその熱交換器を内蔵しています。
- ② 内蔵している給湯器は先止式です。
- ③ 元コックの開閉・点火・消火・風呂だき・シャワーのすべてが、浴そうの中から操作できます。
- ④ 電池式連続スパーク点火装置を採用し、パイロットバーナーの点火を容易にしました。
- ⑤ パイロットバーナーの点火の確認と電池の消耗を浴室内で確認できます。
- ⑥ 安全のため次のような安全装置が組込まれています。

・パイロット安全装置(熱電対式)

パイロットバーナーに点火されないかぎり、メインバーナーにガスが流れず、万一パイロットバーナーが消えた場合でも機器内のガスは、すべて自動的に止まります。

・風呂釜過熱防止スイッチ

浴そうに水が入っていない時や空だきの恐れがある低水位になった場合、異常温度を検出して機器内のガスはすべて自動的に止まります。

・ガスガバナ

地域や時間によって変動するガスの圧力を常に一定に保ち、バーナーの炎を安定に燃やす働きをします。

・水ガバナ

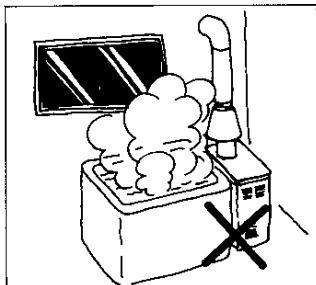
水圧の変動で湯温が変化するのを防ぎ、ガス圧調整器の作動を助ける役目をしますから温度の安定したお湯を使うことができます。

・低温作動弁

厳寒における凍結防止補助のために、低温作動弁を内蔵しています。
(22ページを参照してください)

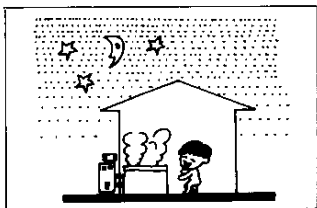
設置状態の確認

- この風呂釜は必ず浴室外に設置してあるか確認してください。

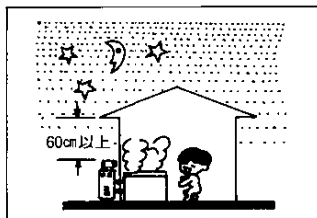


31-022型 屋外設置の場合

- この風呂釜は必ず屋外に設置してあるか確認してください。



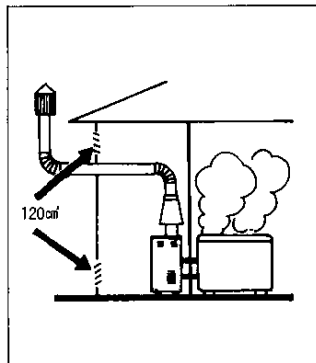
- 屋外排気筒上端から上方60cm以内の軒などの障害物がないように設置してあるか確認してください。



31-023型 屋内設置の場合

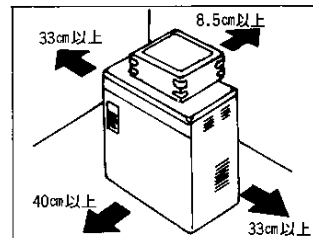
この風呂釜は必ず屋内に設置し、10cm ϕ の二次排気筒を取り付けて屋外に、排気を排出してください。
上部に排気口、下部に給気口、各120cm ϕ を設けてください。

「この製品を屋内に設置する場合は法律に基づく表示が必要です。」

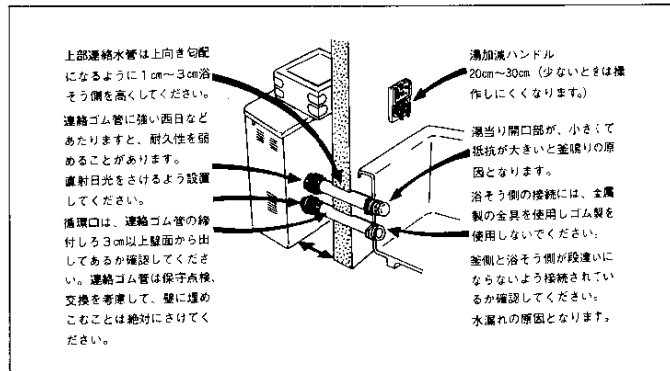


設置状態の確認②

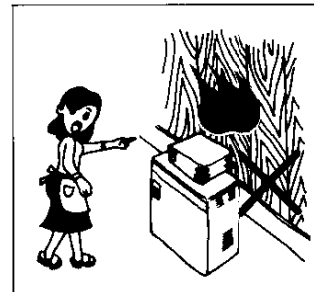
- 定期点検、および修理、調整などの際の隔離として右図の空間をあけて設置してあるか、確認してください。



- 風呂釜と浴室との関係

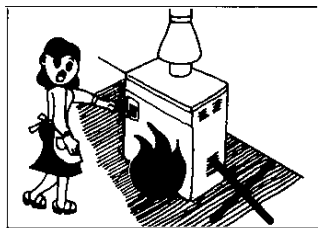


- 風呂釜周辺の木部や可燃性の建材などは、モルタルなど不燃物で保護してあるか確認してください。

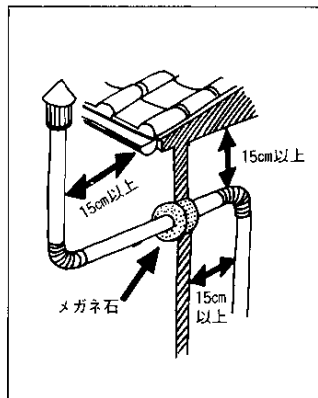


設置状態の確認③

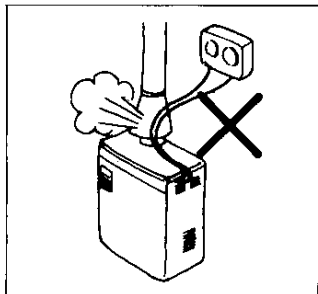
- 風呂釜の底部も相当温度が上がりますので、不燃物の上に設置してあるか確認してください。



- バフラーや排気筒は、壁やひさしなど建物の木部に接する場所では最低15cm以上木部から離し、メガネ石や防火性スリーブなどを利用して保護されているか確認してください。

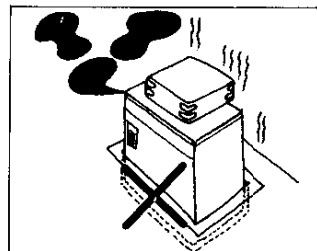


- 湯かげんハンドルワイヤーや、リード線はバフラーや排気筒などの高温部から十分離れているか確認してください。高温部に触れると損傷することがあります。

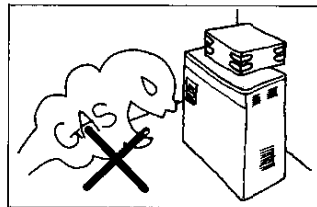


設置状態の確認④

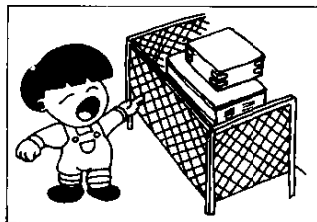
- 風呂釜の脚をはずして地面に密着させたり、風呂釜の底が埋込まれて設置をしていないか確認してください。風呂釜底部からも燃焼に必要な空気を取り入れていますので、不完全燃焼の原因になり危険です。



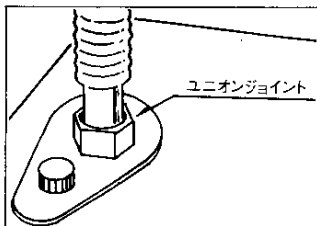
- 腐蝕性ガスの発生(アンモニア、塩素、イオウ、酸類など)する工場などの近くに取り付ける場合は、これらに影響を受けない場所を選んで設置されているか確認してください。



- 共同通路などに面し、手をふれるおそれのある場所に設置されているときは、柵やかこいなどで防護処置をしてください。



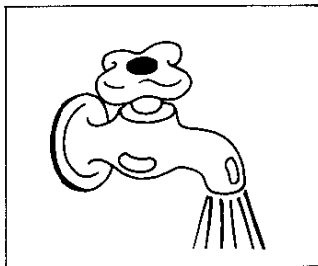
- 給水、給湯の接続はユニオンジョイントで接続してください。修理の際などに分解できるようにして、しないと思わぬ手間がかかることがあります。



ご使用法

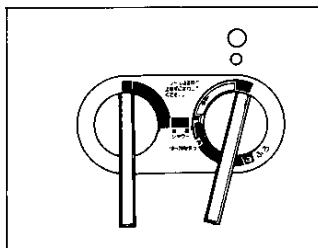
はじめてお使いのとき

- はじめてお使いになるときや、水抜きをされたとき、または長期間使用しなかったときは、パイロットバーナーに点火する前に必ず水道の元せんを開け、給湯配管先の蛇口を開けて通水し、配管中の空気を追いだして、(蛇口からスムーズに水が流れ出ることを確認してから)ご使用ください。湯沸しの空だきによる器具の損傷を防ぎ、また点火直後に起るメインバーナーの消火を防ぎます。

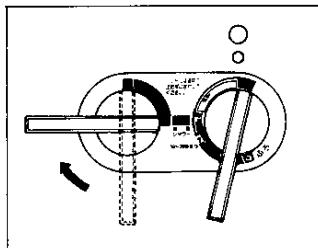


① 点火

- (1) すべてのハンドルが「止」の位置にあるのを確かめてください。

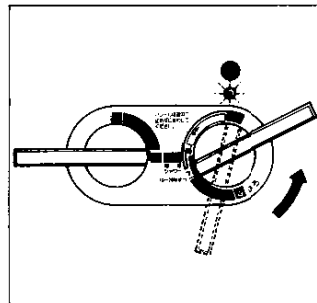


- (2) ガスの元コックを開ける。
元コックハンドル(左側)を「開」にまわす。



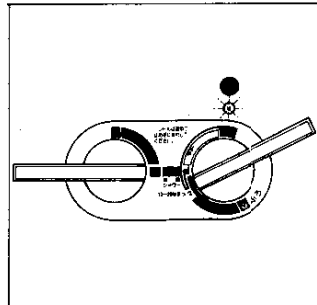
ご使用法②

- (3) パイロットバーナーに点火
湯かげんハンドル(右側)を ① にゆっくり確実に途中で手をゆるめずに止まるまでまわして、そのまま10~20秒まって、パイロットバーナーの点火を確かめてください。(点火確認窓の黒色がオレンジ色になると点火しています。)

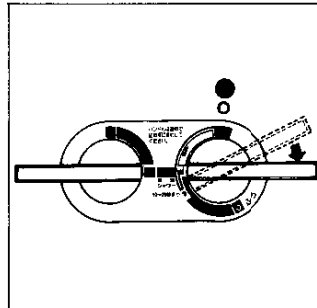


〈ご注意〉

- 湯かげんハンドルを ① にまわしたとき「電池確認ランプ」が付きませんが、電池確認ランプがつかなかったときは、電池が消耗していますから、乾電池(単一)を取りかえてください。一回で点火しないときは(3)の操作をくりかえしてください。



- (4) 点火を確認してから ② の位置にもどします。このとき電池確認ランプが消えて、点火確認窓の(オレンジ色)はそのまま残ります。

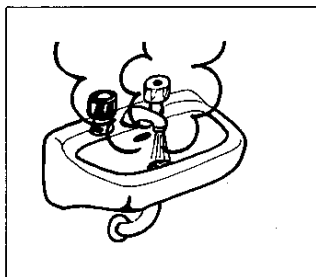


ご使用法③

② メンバーナーの着火

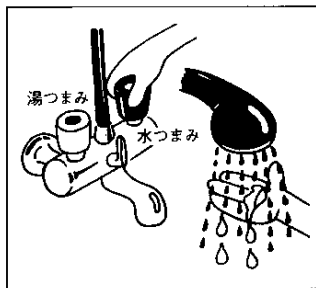
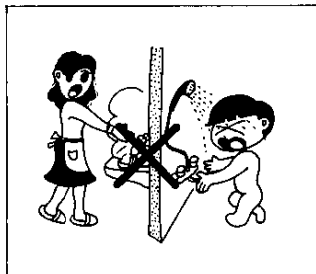
(1) お湯を使う場合

② の位置で混合止水栓のつまみ、または給湯配管先の蛇口を開けるとメンバーナーに着火し、お湯が出てきます。



<ご注意>

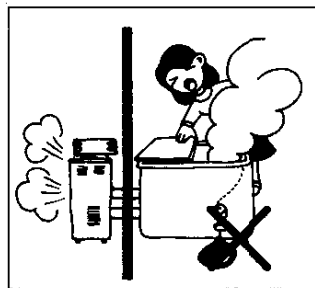
- ・シャワー使用中に給湯配管先でお湯を使わないでください。シャワーの温度が変化し、快適なシャワーが使えません。
- ・ふろを長時間使った直後に給湯器をご使用になる場合、出始めのお湯は相当熱くなっていますから濡湿が安定してからご使用ください。
- ・シャワーのお湯があつすぎるときは混合止水栓の水つまみを開け、水を出して濡湿を調整してください。



ご使用法④

(2) 風呂を沸す場合

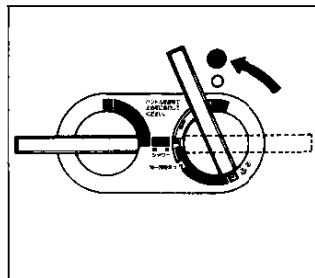
浴そうに水（またはお湯）が湯当りの上端より上へ10cm以上にあることを確認してください。水（またはお湯）が少なかったり、入っていなかったりすると空だきになり器具の寿命を著しく短くしますから絶対さけてください。



湯かげんハンドルを ③ の位置へまわすと、風呂側のメンバーナーに着火します。

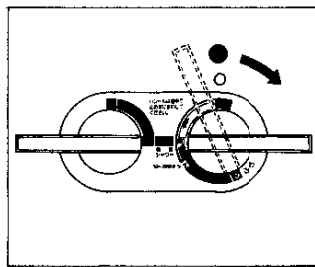
<ご注意>

- ・湯かげんハンドルが ③ の位置（風呂側のメンバーナーに着火中）は混合止水栓のつまみ、または給湯配管先の蛇口を開けてもお湯はつかえません。



③ 風呂の消火

湯かげんハンドルを ② にもどすと、風呂側のメンバーナーが消えます。

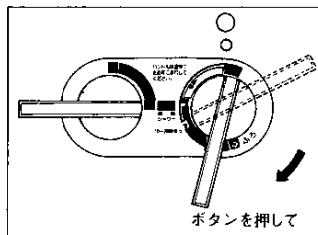


ご使用法⑤

④パイロットバーナーの消火

湯かげんハンドルをボタン押したまま「止」の位置へ止まる迄もどすと消火します。

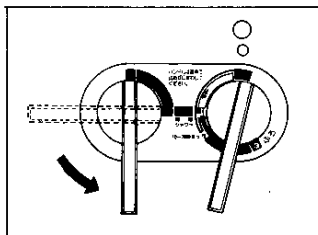
※点火確認窓の（オレンジ色）は消火後しばらくして（黒色）に変わります。



⑥ガスの元コックをしめる

元コックハンドルを「止」にもどすとガスの元コックがしまります。

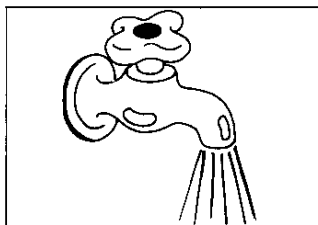
・器具をお使いにならないときは、ガスの元コックを必ずしめる習慣をつけましょう。



④給湯配管して使う場合

この風呂釜から給湯配管（別途工事）して洗面所などでもお湯が使えます。（給湯配管長さ5mくらいまで。）

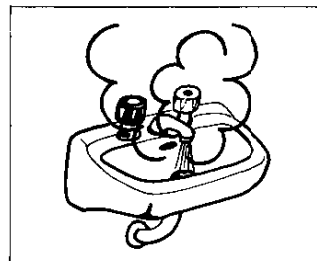
①水道の元せんを開け、配管先の蛇口を開けて通水し、配管内の空気を追いだし、蛇口からスムーズに水がでることを確認してから、蛇口を閉じます。



ご使用法⑥

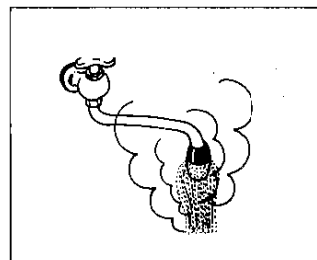
②浴室内のガス元コックハンドル（左側）を「開」にまわし、湯かげんハンドル（右側）を ① にゆっくり確実に途中で手をゆるめずに止まるまで回して、そのまま10～20秒まって点火を確かめてください。点火確認窓の（黒色）から（オレンジ色）になると点火しています。点火を確かめて湯かげんハンドルを ② の位置までもどします。（ここまでは14ページのご使用と同じです。）

③使用する配管先の蛇口を開けますと、自動的にメインバーナーに点火しお湯がでできます。



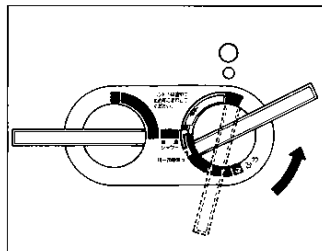
〈ご注意〉

- ・水の通りにくい蛇口（例えば泡沫水せんなど）を取付けられると、メインバーナーが点火しなかったりしますのでご注意ください。
- ・配管先の蛇口では湯温調節はできませんので、湯水混合水栓を使用してください。

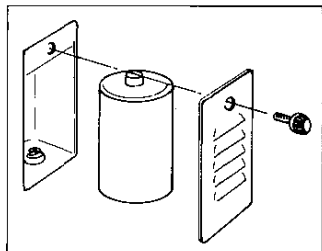


電池の入替え方

- 湯かげんハンドルを [1] にまわしても電池確認ランプがつかないときは、電池がなくなっていますので次の方法で入替えてください。



- 器具前板の左側に電池ケース用の蓋がありますから蓋をあけて電池（単一乾電池1ヶ）を入れかえてください。



〈ご注意〉

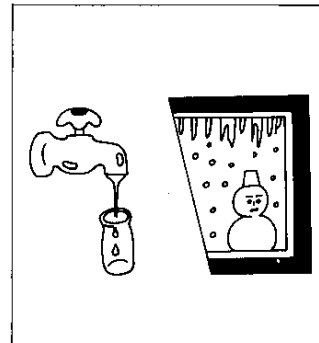
電池の⊕・⊖の表示通り間違わないように入れてください。

凍結による器具の破損を防ぐために

凍結のおそれのある場合のみ操作します。長期間不在される場合や寒さがきびしいとき、または寒冷地でご使用の場合には、凍結による器具の破損を防止するため必ずつぎの順序で凍結防止処置をしてください。

① 通水法（給湯せんから水を流し放しにする方法で一般的な凍結防止方法です。）

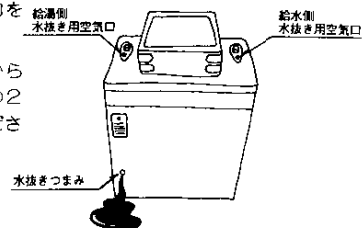
- まずガス元コックハンドル・湯かげんハンドルを閉じ、火がつかないようにしてから、給湯カランから少量の水（1分間に牛乳びん1本以上、〈200cc以上〉）ただし寒さにより流量が異なりますので、特に寒い日は多目に）を流しておいてください。なお流量が不安定なこともありますので、念のため30分ぐらい後にもう一度流量をお確かめください。この方法で器具本体はもちろん給水管、バルブ類の凍結防止ができます。
- 水を流す場合は浴そうなどのために雑用水としてお使いください。



② 水抜き法（入居前や長期不在の場合や異常寒気の場合の凍結防止方法です。）

※この場合、器具接続部迄の給水配管の凍結防止はできません。

- （1）ガスおよび水道の元せんをしめます。
- （2）蛇口または給湯配管先の全ての蛇口を開けて水を出します。
- （3）器具本体の水抜きつまみを開けてから水抜き用空気口（給水側、給湯側の2カ所）を開けて水を十分抜いてください。

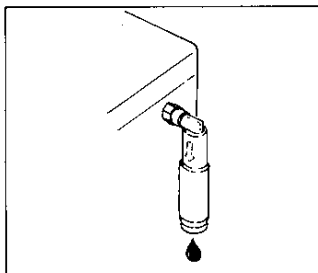


凍結による器具の破損を防ぐために②

- (4) シャワーヘッドを床面まで下げてシャワーホースの水も抜いてください。
- (5) 再使用前には必ず水抜きつまみ、水抜き用空気口をしめ、もとどおりにしてから使用してください。

低温作動弁の装置について

- この風呂釜には、万一20ページの凍結防止処置を忘れた場合や急な冷え込みのときは、自動的に窓外に少量の水を流出し、外気温度が上昇すると自動的に水が止まる低温作動弁を組込んでいます。
- これは凍結の予防の為のもので低温作動弁が働いて水が流出した場合は、必ず20ページの①および②の処置をしてください。低温作動弁だけでは、冷え込みの厳しい場合や、異常寒気の場合は効果はありません。



〈ご注意〉

- 器具の中の水を抜く場合以外は、絶対に水道の元せんをしめないでください。低温作動弁が作動しません。
- 冬場に低温作動弁が、凍結予防のために作動すると、水がたれ流されます。器具が屋内設置されている場合は、器具下部の下面に排水設備を設けてください。また、器具が屋外に設置されている場合は、ぬれたり、凍りついたりしますので物を置かないでください。また凍った場合は、すべらないようにご注意ください。

凍結したときは

- 器具や配管が破損すると高額な修理費がかかる場合があります。(有償)
- 凍結したまま使いますと、器具に異常が生じる場合があります。
- 凍結がとけた後、水漏れがないのを確認してからご使用ください。

安全装置が作動したときの処置方法

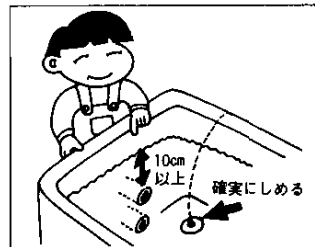
パイロット安全装置

風が異常に強い場合等に作動しパイロットが消え、ガスが自動的に止まる場合があります。このときは風が弱まる迄待つからご使用ください。



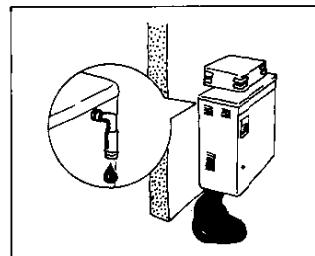
風呂釜過熱防止スイッチ

浴そうに水を入れ忘れたときや、少なかったときは、異常温度を検知しガスをとめてしまいます。このときは、約15分程待ってから水を上部水管より10cm以上入れて、水が漏れていないかを確認し、異常がないのを確かめてから再点火してご使用ください。



低温作動弁

凍結防止処置を忘れた場合や、急な冷え込みのときに作動します。この場合は必ず通水法や、水抜き方で凍結防止処置を行ってください。(詳しくは20ページ参照ください。)



日常の点検とお手入れ

点検・お手入れの際のご注意

日常の点検、お手入れは必ず行ってください。

点検、お手入れは、やけどをしないように器具が十分に冷えてからしてください。

点検とお手入れ法

①給湯器が古くなると熱交換器や、バーナーにサビや黒いスス等がつまって不完全燃焼の原因になります。3年に一度くらいは掃除が必要です。お買い求めの大阪ガスサービスショップ、風呂ショップが大阪ガスにお申し込みいただければ有償でお引受けいたします。



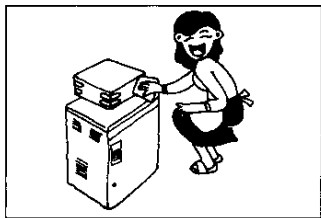
②風呂熱交換器の掃除

ときどき浴そう内の湯当りをはずしてゴムホースで強く水を入れて、熱交換器の内部を水洗いしてください。下の循環口から水アカ等がでできます。(ごとごとかまなりがしたり、湯アカが熱交換器内からでてくるのは内部がよごれているからです。)



③外観の掃除

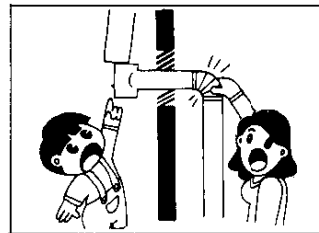
よごれには、やわらかい布に中性洗剤をつけて落とし、後をやわらかい布で空ぶきしてください。タワシなどで強くこするとキズがつきサビ等の原因になりますからご注意ください。



日常の点検・お手入れ②

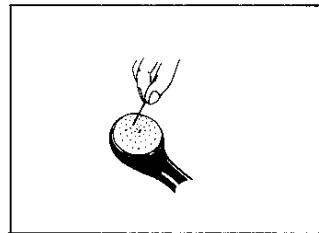
④排気筒の点検(31-023屋内用の場合)

- ・くさって穴があいていませんか。
- ・接続部がはずれていませんか。
- ・熱気のないときに手でおさえるなどして点検してください。



⑤シャワーヘッドのお手入れ

シャワーヘッドの噴出口がつまりますと湯量が減ったり、バーナーに火がつかなくなったりしますので、ときどき針などでお掃除して通水を良くしてご使用ください。



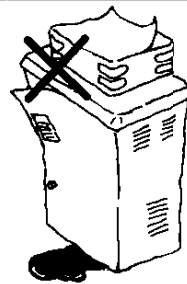
点検の結果

故障または、破損したと思われるものは絶対に使用しないでください。








不完全な修理は危険です。

万一具合が悪くなって処置にこまるような場合はお買い求めになった大阪ガスサービスショップ、風呂ショップが大阪ガス迄ご連絡ください。




使用禁止!




故障、異常の見分け方と処置方法

故障状況	原因	処置
①タネ火に点火しない	①パイロットノズルのつまり。	①パイロットノズルを掃除する。 
	②湯かげんハンドルのまわし方が弱い。または、まわし時間が足りない。	②湯かげんハンドルを十分にまわし、約10～20秒まわし続ける。 ※
	③ガス配管先の空気の放出不足。	③元コックハンドルを開き、湯かげんハンドルを十分に開いて、配管中の空気を十分に出す。 ※
	④パイロットの炎が熱電対に当たっていない。	④炎が熱電対に当たるようにする。 
	⑤パイロット安全装置の故障。	⑤大阪ガスに連絡。 
	⑥点火用電池の消耗。	⑥電池(単1)を新しいものに取替える。 ※
②バーナーに着火しない。	①給水圧力の不足。	①配管を太くするが途中の抵抗を少なくする。ポンプ給水の場合はスイッチで給水圧を高くなるように調整する。
	②ダイヤフラムの破損。	②大阪ガスに連絡。 
③お湯を止めてもバーナーの火が消えない	①給湯配管の途中で水が漏れている。	①水道工事店で修理してもらう。
	②ガス弁の故障。	②大阪ガスに連絡。 
④設定温度(水温+45℃)にならない。	①ガス圧設定不良。	①大阪ガスに連絡。 
	②水ガバーナーの故障。	②大阪ガスに連絡。 

故障・異常の見分け方と処置方法②

故障状況	原因	処置
①風呂釜を空だきしたとき。	漏水または給水忘れ。	①浴そうに水をいっぱいはいり、ホースで熱交換器内部を掃除し、熱交換器の水漏れがないことを点検する。 ※
⑥ガス臭い。	①熱交換器にススがたまっている。	①熱交換器水洗い。 
	②排気が室内に流れ込む。	②換気設備不良箇所の改善を行う。 
	③ガスが漏れている。	③すぐ使用を中止し大阪ガスへ連絡する。 

※印の場合は自分の手で簡単にできます。

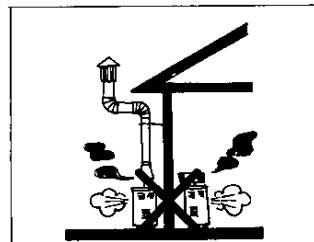
印またはその他ご不審の点は、大阪ガスへご連絡ください。なおご不審な点について大阪ガスサービスショップ、風呂ショップもしくは大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。なおご連絡いただくときは、器具に貼付してございますコード番号をお知らせください。

【例】

(4)31-022(U)
大阪ガス株式会社

設置環境の確認について

この風呂釜を設置された後に、増築や転宅等で設置環境に変化が予想される場合は、大阪ガスにご相談ください。31-022屋外設置型をそのまま屋内に設置したり、また31-023屋内設置型をそのまま屋外に設置することは絶対さけてください。



保管(長期間使用しない場合)

- ①水道の元せんをしめてから器具内の水を全部抜いてください。
(20ページ水抜き法参照)
- ②ガスの元コックハンドルをしめ、湯かげんハンドルも「止」にします。
- ③浴そうの水も抜いてください。

アフターサービスのお申し込み

修理・サービスについて

ご不審点や故障などのサービスの必要なとき、または部品については大阪ガスサービスショップ、風呂ショップまたは大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。なおご連絡いただくときは、故障状況とともに器具の前面に貼付してあるコード番号もあわせてお知らせください。

保証について

この器具には保証書がついています。

当社は保証書に記載してあるように、器具の販売後、器具に故障がある場合、一定期間と一定条件のもとに、無料修理に 응ずることを約束致します。(詳細は保証書をご覧ください)保証書を紛失されると無料修理期間であっても、修理費をいただく場合がありますので大切に保管してください。

補修用性能部品の保有期間と修理について

無料修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は、有料修理致します。

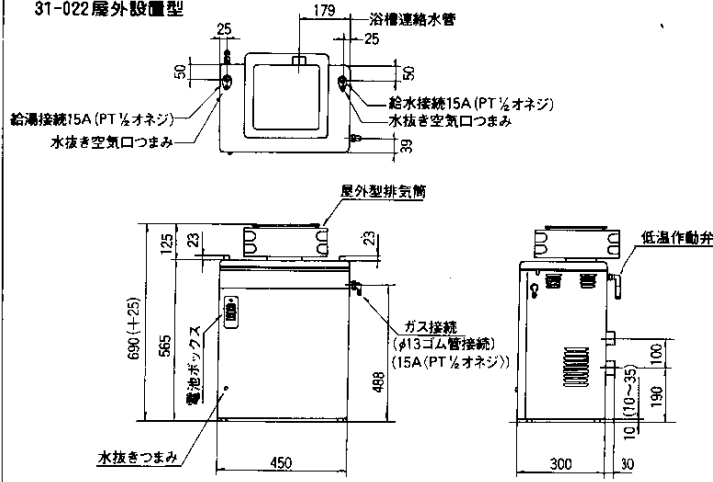
なお、当社は販売店からの注文により補修用性能部品を販売店に供給します。このガス風呂釜の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後6年です。

- (1) この期間は、通商産業省の指導によるものです。
- (2) 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

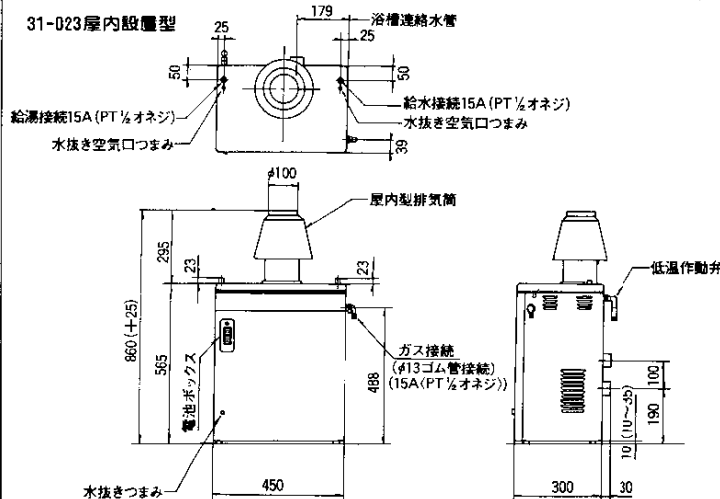
仕 様

■寸法図

31-022 屋外設置型



31-023 屋内設置型



仕様②

■仕様一覧表

器 種 名	31-022(屋外設置型)	
	31-023(屋内設置型)	
形 式	RFS-1N(G)-A.....31-022(屋外設置型)	
	RFS-1N(G)-B.....31-023(屋内設置型)	
点 火 方 式	乾電池式連続スパーク点火	
水 圧	使用水圧	0.8kg/cm ² ~
	作動水圧	0.5kg/cm ² ~
外 形 寸 法(mm)	31-022(屋外設置型)-高さ690(屋外排気筒含む)×幅450×奥行330(水筒含む)	
	31-023(屋内設置型)-高さ860(パフラー含む)×幅450×奥行330(水筒含む)	
重 量	22.3kg	
循環口取付口径	外径45mmピッチ100	
接 続	給 水	PT $\frac{1}{2}$ Bオネジ
	給 湯	PT $\frac{1}{2}$ Bオネジ
	ガ ス	13mm ϕ 強化ゴム管又はネジ接続
排 気 筒 径	100mm ϕ	
基準浴そう(mm)	1人用(700×800×640)	
安 全 装 置	パイロット安全装置 風呂釜過熱感知装置 給湯器過熱感知装置 ガスガバナ 水ガバナ 低温作動弁	

■使用ガス

使用ガスグループ消費量一覧表

使用ガス 使用ガスグループ	1時間当りガス消費量		
	給湯器	風呂釜	
都 市 ガ ス	6 C	12,000kcal/h	12,000kcal/h
	6 A	12,000kcal/h	12,000kcal/h
13 A	12,000kcal/h	12,000kcal/h	
L P ガ ス	1.01kg/h	0.88kg/h	

■出湯能力


(水圧1kg/cm²の場合)

上昇温度(°C)	25°C上昇
出 湯 量	6.2ℓ / 分

本社・支社所在地および電話番号

本 社	大阪市東区平野町5-1	電話 大阪	06(202)2221	541
サ ー ビ ス セ ン タ ー				
南 北 支 社	大阪市西成区玉出東2-9-41	電話 大阪	06(652)0001	557
堺 支 社	大阪市淀川区十三本町3-6-35	電話 大阪	06(301)1251	532
堺 支 社	堺市住吉橋町2-2-19	電話 堺	0722(38)1131	590
高 槻 支 社	高槻市藤の里39-6	電話 高槻	0726(71)0361	569
西 宮 支 社	西宮市和上町4-11	電話 西宮	0798(26)3101	662
東 大 阪 支 社	東大阪市稲葉2-3-17	電話 河内	0729(62)1131	578
枚 方 支 社	枚方市西田宮町16-17	電話 枚方	0720(41)1251	573
神 戸 支 社	神戸市中央区相生町5-13-10	電話 神戸	078(576)5231	650
京 都 支 社	京都市中京区烏丸御池梅原町358	電話 京都	075(231)8151	604
奈 良 支 社	奈良市学園北2-4-1	電話 奈良	0742(44)1111	631
和 歌 山 支 社	和歌山市本町1-1	電話 和歌山	0734(31)2481	640
姫 路 支 社	姫路市神屋町4-8	電話 姫路	0792(85)2221	670
加 古 川 支 社	加古川市加古川町薬津29-1	電話 加古川	0794(21)1801	675
豊 岡 支 社	豊岡市三城町6-57	電話 豊岡	0796(3)2221	668
津 島 支 社	津島市追分町字荒畑680-1	電話 津島	0775(62)5311	525
彦 根 支 社	彦根市大東町9-41	電話 彦根	0749(22)3131	522
長 浜 支 社	長浜市南興福町3-4	電話 長浜	07496(2)2171	526

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

- ガス機器をご使用のときは、換気にご注意ください。
- お使いになったあとは、器具せん(元せん)だけでなくガスの元せんもならずしめましょう。
- ゴム管は、良質の大阪ガス製  マーク入りのものを、そしてコックについている赤線のところまで深くさしこみ、必ずゴム管止めでしめつけましょう。
- お使いにならない鉄管先の元せんにはゴムキャップをかぶせておきましょう。

大阪ガス株式会社